

島根県の地震

令和5（2023）年8月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

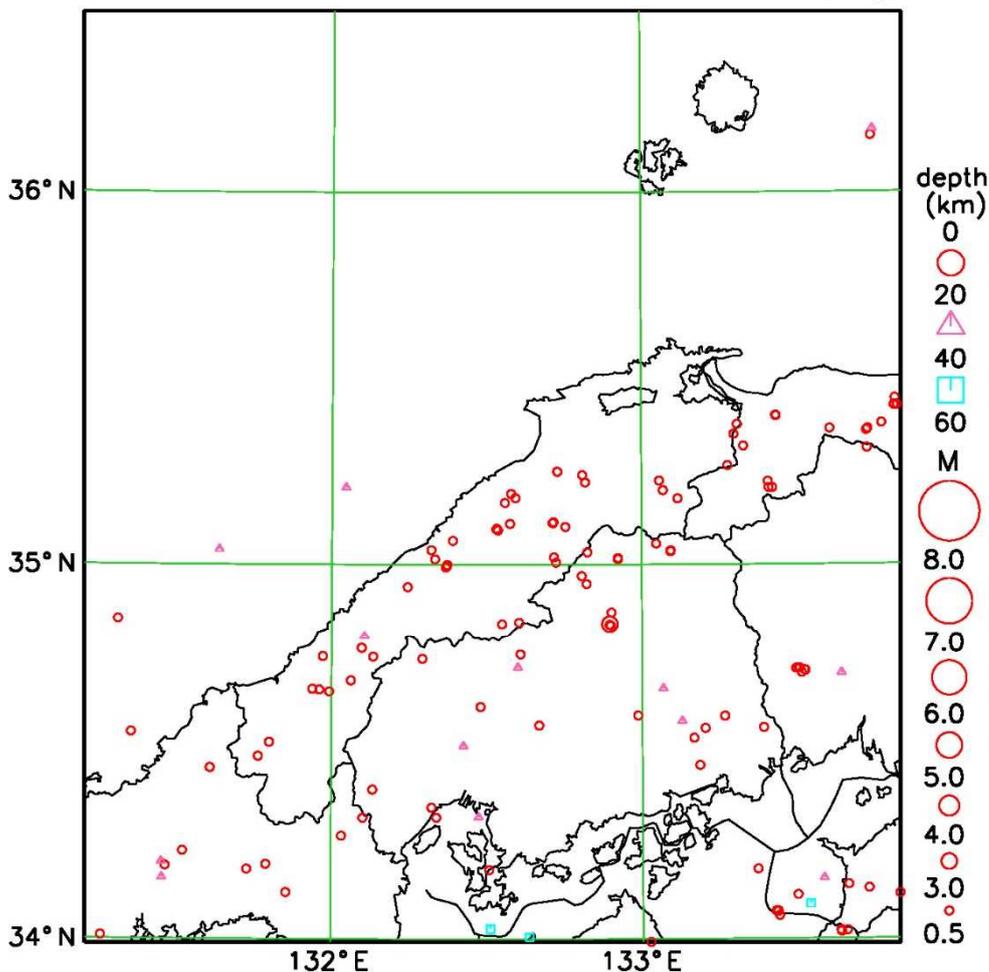
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2023年8月1日～31日

2023 08 01 00:00 -- 2023 08 31 24:00

N=137



[概況]

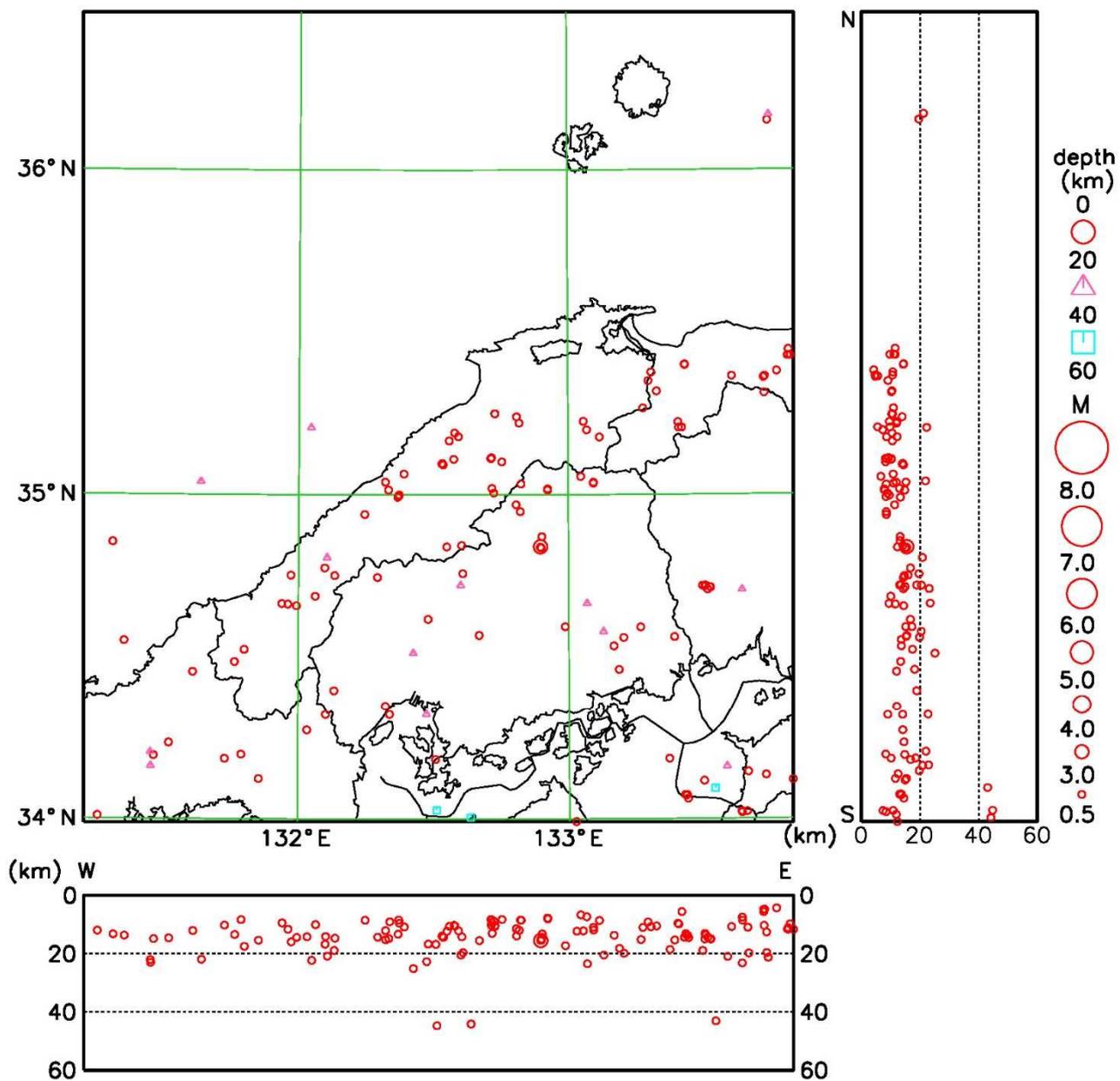
今期間、M0.5以上を観測した地震は137回（7月は170回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、1回でした。

26日22時29分 周防灘の地震（深さ74km、M4.6：地図範囲外）により、益田市・江津市・邑南町・吉賀町で震度2を観測したほか、松江市・出雲市・安来市・雲南市・浜田市・大田市・奥出雲町・川本町・津和野町・美郷町で震度1を観測しました。また広島県大竹市・江田島市、山口県下関市・上関町・下松市で震度3を観測したほか、近畿・中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

[断面图]

2023 08 01 00:00 -- 2023 08 31 24:00



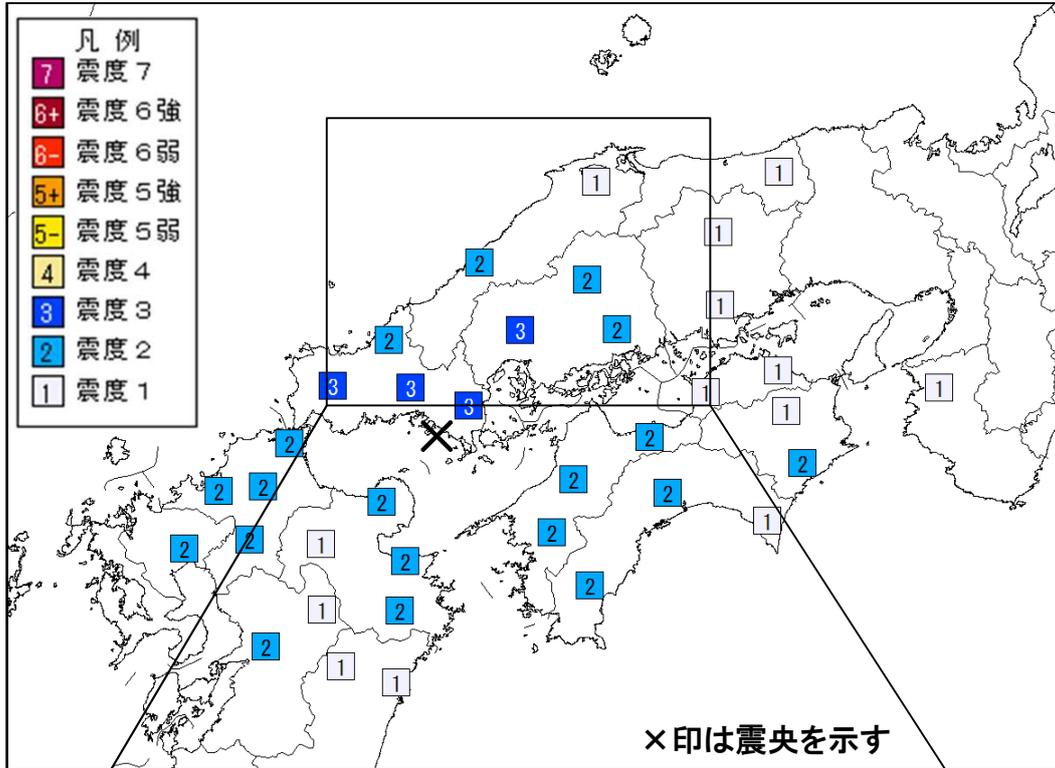
8月の島根県内の地震表（震度1以上）

| 発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載） | 震央地名 | 緯度 | 経度 | 深さ | マグニチュード |
|-------------------------------|--|-------------|--------------|------|---------|
| 2023年08月26日22時29分 | 周防灘 | 33° 55.5' N | 131° 53.2' E | 74km | M4.6 |
| ----- 地点震度 ----- | | | | | |
| 島根県 | 震度 2： 益田市常盤町*、益田市美都町都茂*、江津市江津町*、邑南町下口羽* 吉賀町六日市*、吉賀町柿木村柿木* | | | | |
| | 震度 1： 松江市玉湯町湯町*、出雲市今市町、出雲市湖陵町二部*、出雲市斐川町上庄原* 出雲市平田町*、出雲市大社町杵築南*、安来市伯太町東母里* 雲南市三刀屋町三刀屋*、雲南市加茂町加茂中*、雲南市木次町里方* 奥出雲町三成*、浜田市三隅町三隅*、浜田市殿町*、益田市匹見町石谷 益田市水分町*、益田市匹見町匹見*、大田市仁摩町仁万*、大田市大田町* 江津市桜江町川戸*、川本町川本*、津和野町後田*、津和野町枕瀬* 島根美郷町都賀本郷*、邑南町淀原*、邑南町瑞穂支所* | | | | |

・ 地点名の後に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

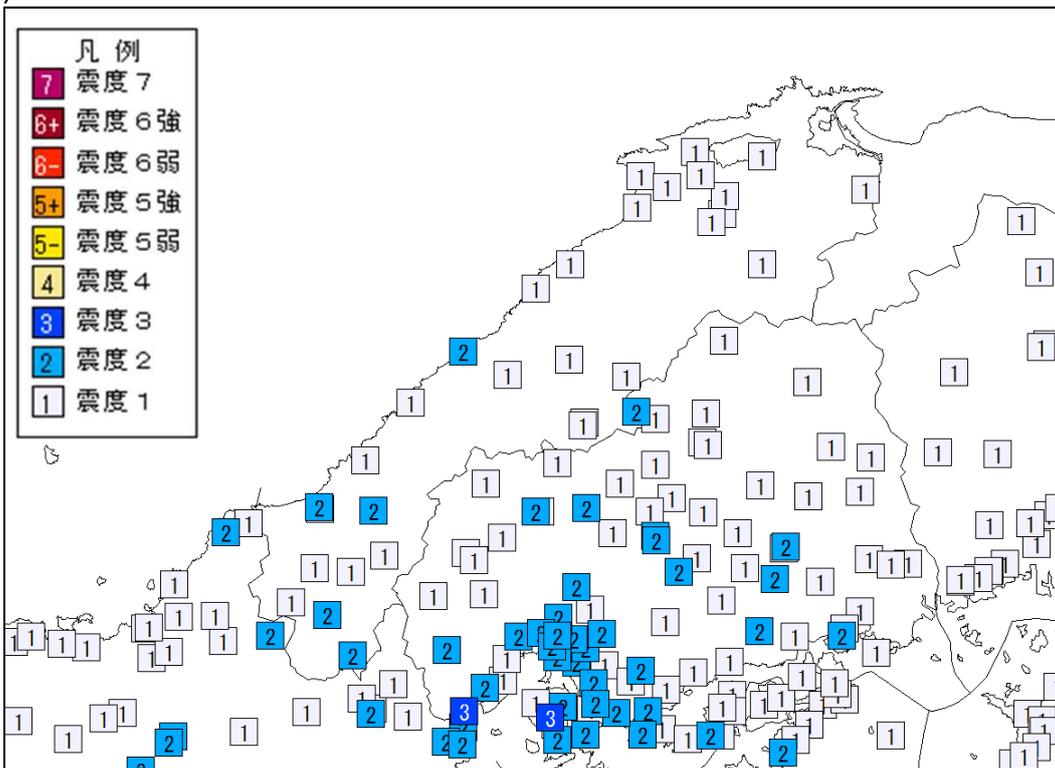
【地域震度分布図】

2023年8月26日22時29分 周防灘



【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



地震一口メモ

緊急地震速報の改善について

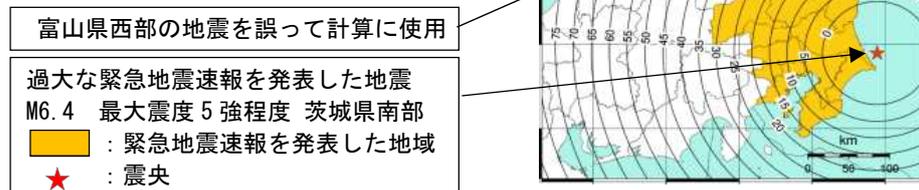
令和5年9月26日より緊急地震速報の揺れの過大予測の低減を図ります

緊急地震速報は、震源に近い地震計でとらえたデータを素早く解析することで震源や地震の規模（マグニチュード）を推定し、揺れの強さや到達時間を予測して強い揺れが来ることを迅速にお知らせする情報です。

これまで緊急地震速報の処理において、離れた場所で同時に複数の地震が発生した場合に同一の地震であるか否かの判定を誤って処理した結果、揺れを過大予測してしまう課題がありました。この対応として気象庁では令和5年9月26日より緊急地震速報の震源の推定手法について、従来のIPF法を含めた複数の手法の併用から改良を加えたIPF法に一本化し、揺れの過大予測の低減を図ることとしました。なお、揺れから揺れを予測する手法（PLUM法）は引き続き運用します。

（改善前）：揺れを過大予測した事例の一例

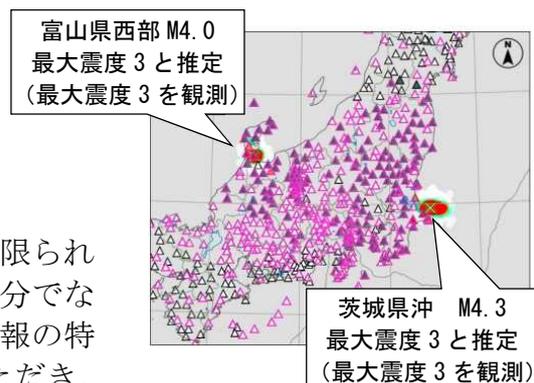
2018年1月5日の茨城県沖と富山県西部で地震が同時発生した際に、同一地震判定の誤りによってマグニチュード（M）が過大となった結果、予測震度が過大な緊急地震速報（警報）を発表しました。



（改善後）

右図は、改良を加えたIPF法の検証結果です。上記の地震においてそれぞれの地震を分離しマグニチュードも予測震度も適切に推定して発表できることを確認しました。

緊急地震速報は、地震発生後に短時間で限られた観測点のデータを用いるため、精度が十分でない場合があります。引き続き「緊急地震速報の特性や限界、利用上の注意」に留意していただき、日ごろからの備えをお願いします。



- ◆ 緊急地震速報の改善点の詳細は気象庁報道発表資料でご確認いただけます。
https://www.jma.go.jp/jma/press/2308/29a/EEW_kaizen_202308.html